

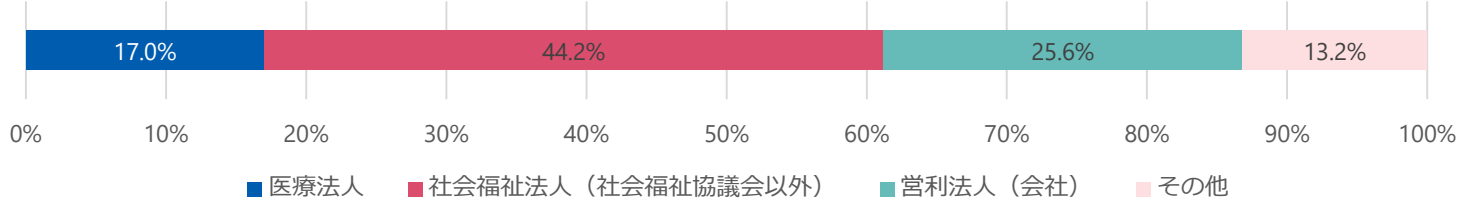
令和2年度ICT導入支援事業 導入効果報告まとめ

厚生労働省 老健局 認知症施策・地域介護推進課

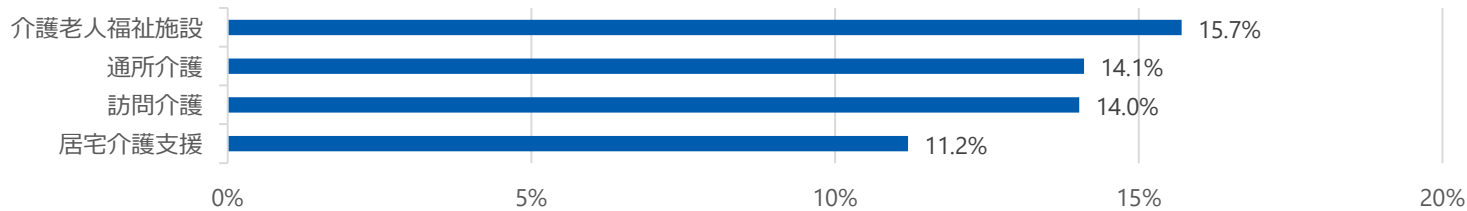
Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan

基本情報

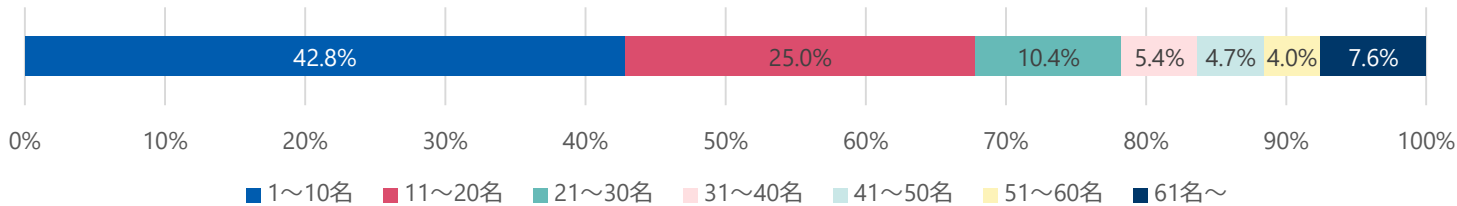
法人種別 N=2553事業所



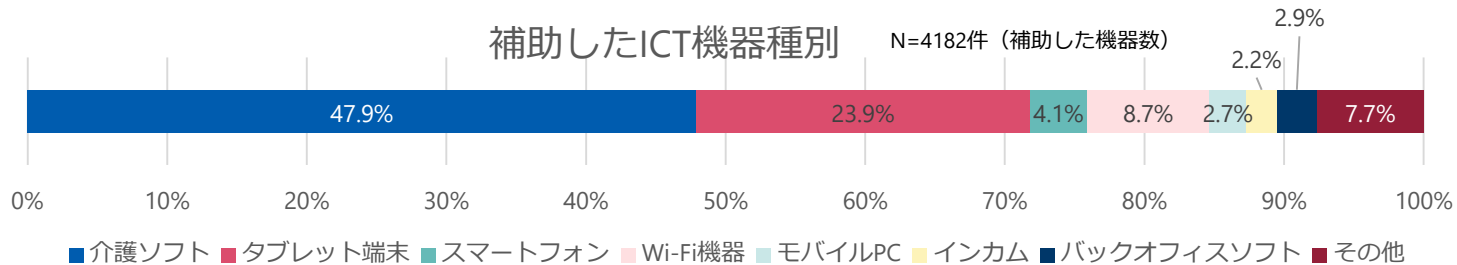
サービス種別 N=2553事業所 10%以上のサービスのみ抜粋



職員数 N=2553事業所

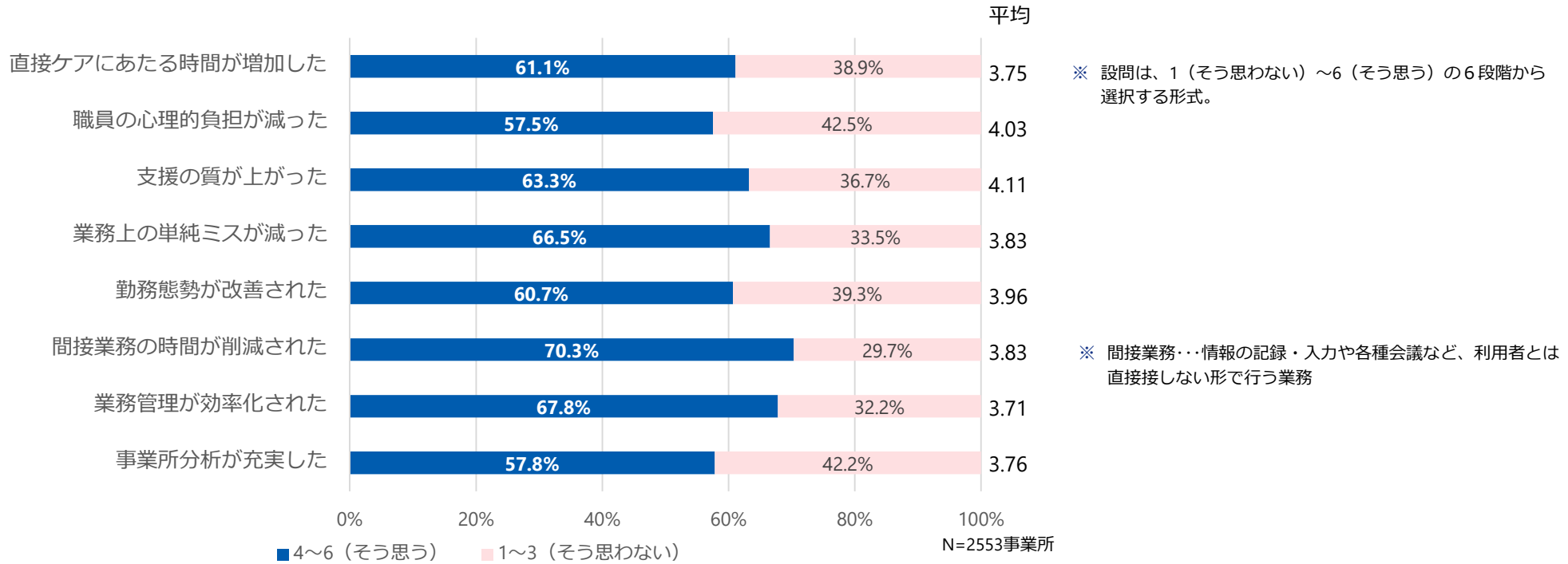


補助したICT機器種別 N=4182件（補助した機器数）



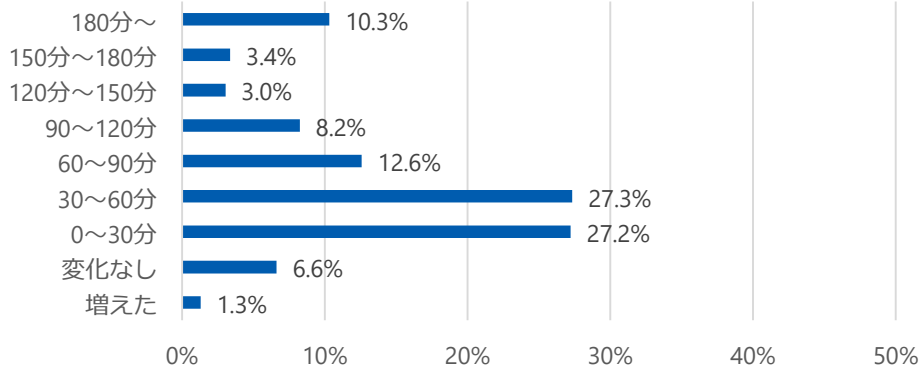
都道府県名	事業所数
01北海道	162
02青森県	10
03岩手県	39
04宮城県	14
05秋田県	11
06山形県	30
07福島県	30
10群馬県	8
11埼玉県	4
12千葉県	19
13東京都	230
14神奈川県	199
17石川県	32
18福井県	64
19山梨県	21
20長野県	5
21岐阜県	261
23愛知県	266
24三重県	71
25滋賀県	42
26京都市	24
27大阪府	86
28兵庫県	94
29奈良県	17
30和歌山県	25
31鳥取県	44
32島根県	24
33岡山県	8
34広島県	29
36徳島県	23
38愛媛県	71
39高知県	49
40福岡県	295
41佐賀県	20
42長崎県	7
43熊本県	37
44大分県	63
45宮崎県	43
46鹿児島県	83
合計	2560

ICT導入の効果



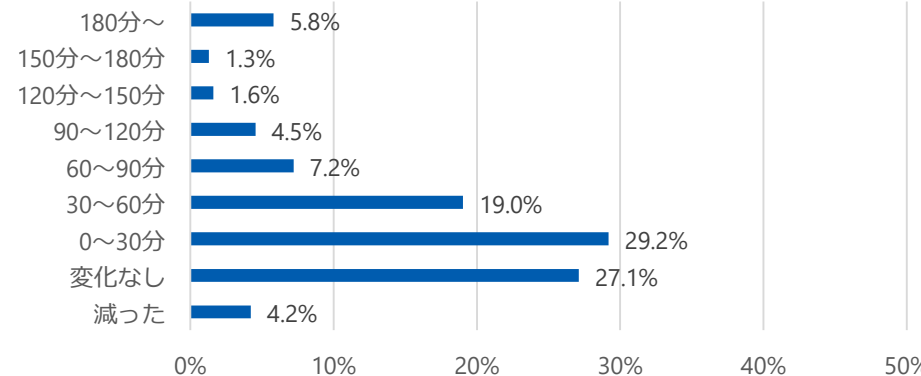
削減した間接業務時間

N=2553事業所
※職員1人あたり1月平均

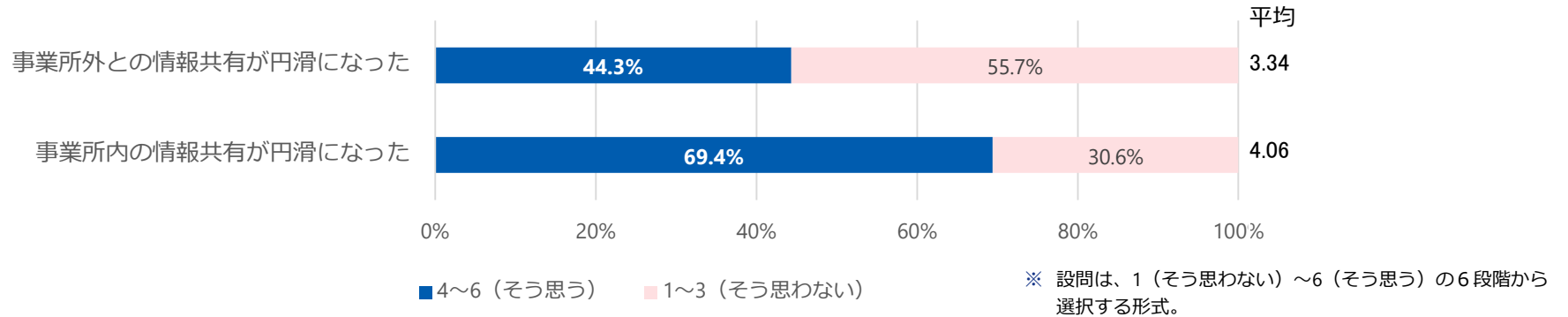


増加した直接ケア時間

N=2553事業所
※職員1人あたり1月平均

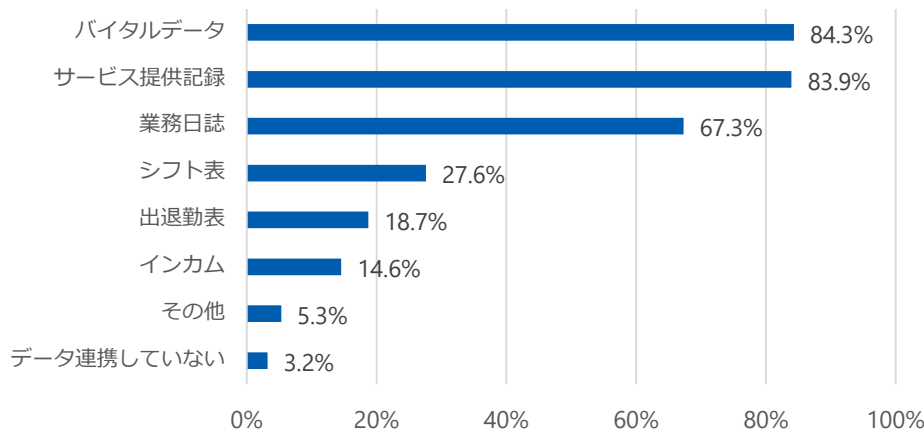


情報共有



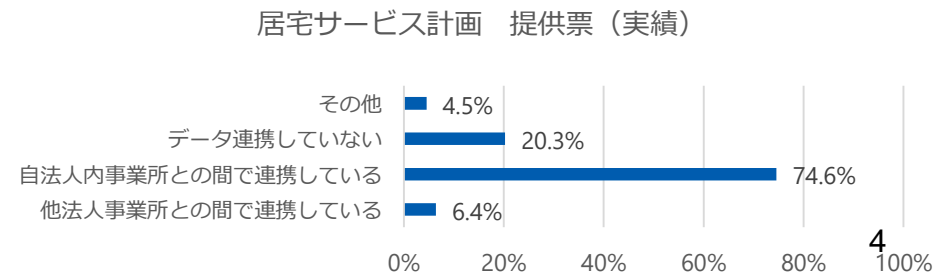
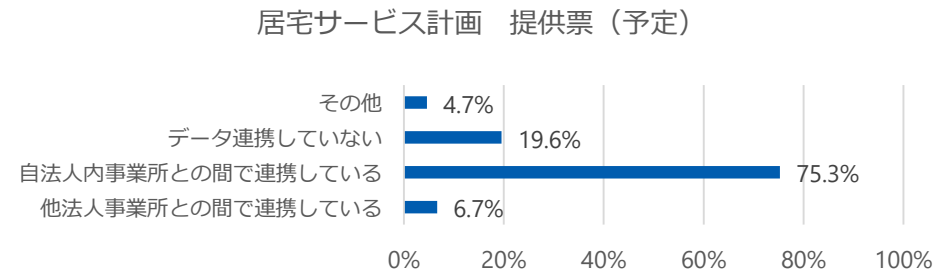
介護保険施設における情報共有の状況

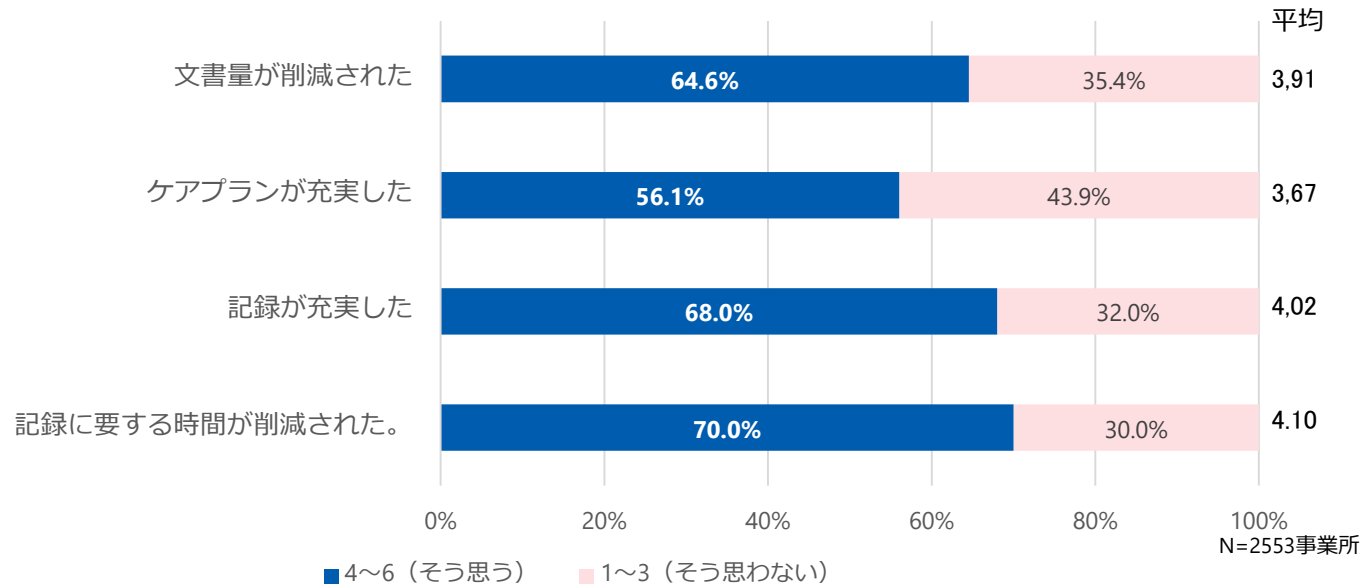
N=529施設



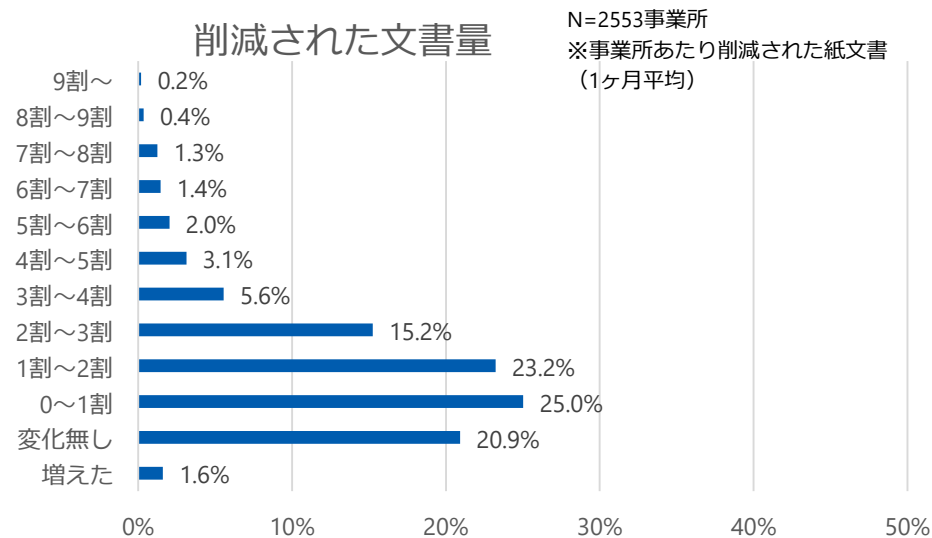
居宅系サービスにおける居宅サービス計画のデータ連携の状況

N=1861事業所

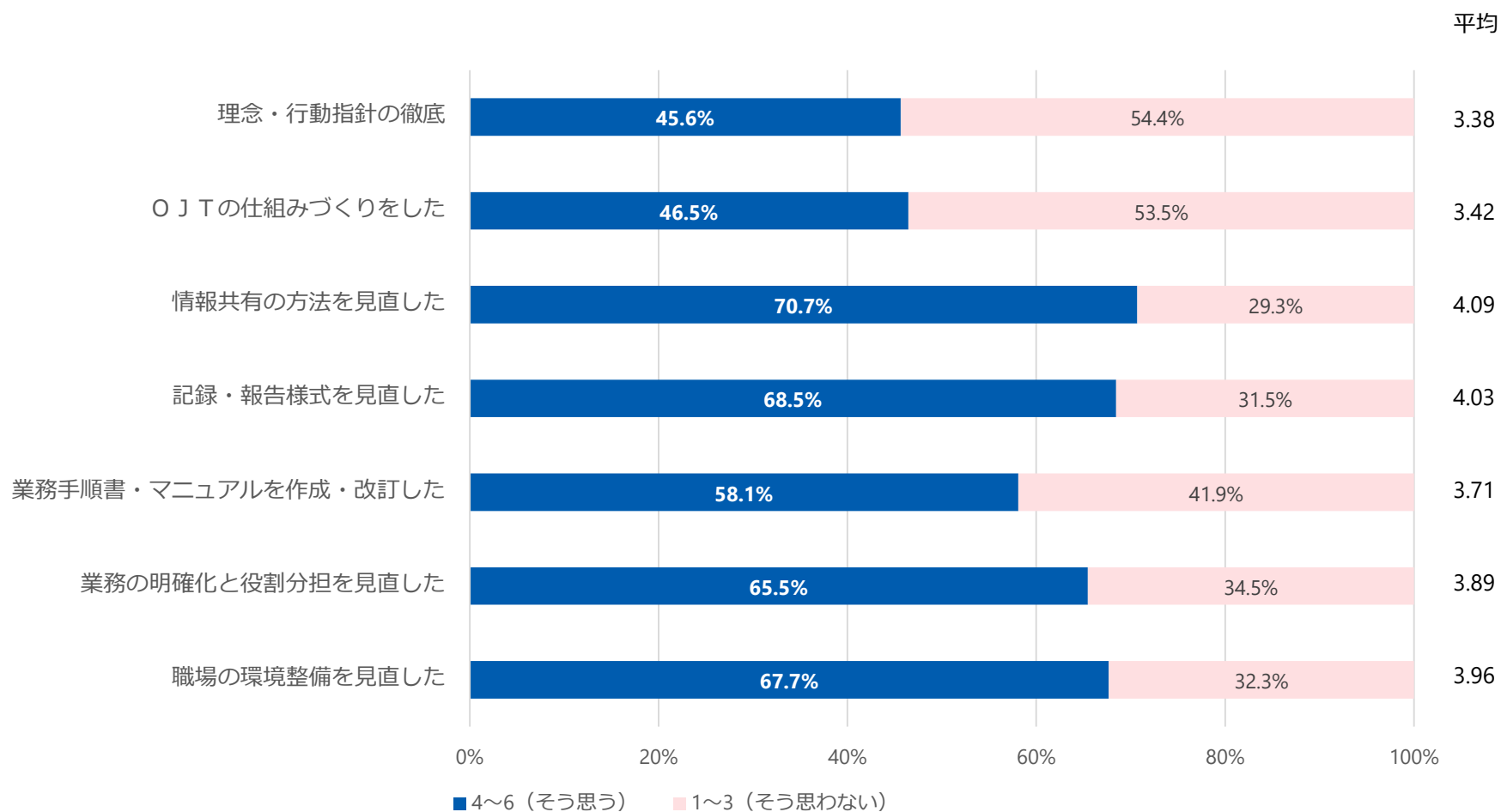




※ 設問は、1 (そう思わない) ~6 (そう思う) の6段階から選択する形式。



ICT導入にあたって工夫したこと



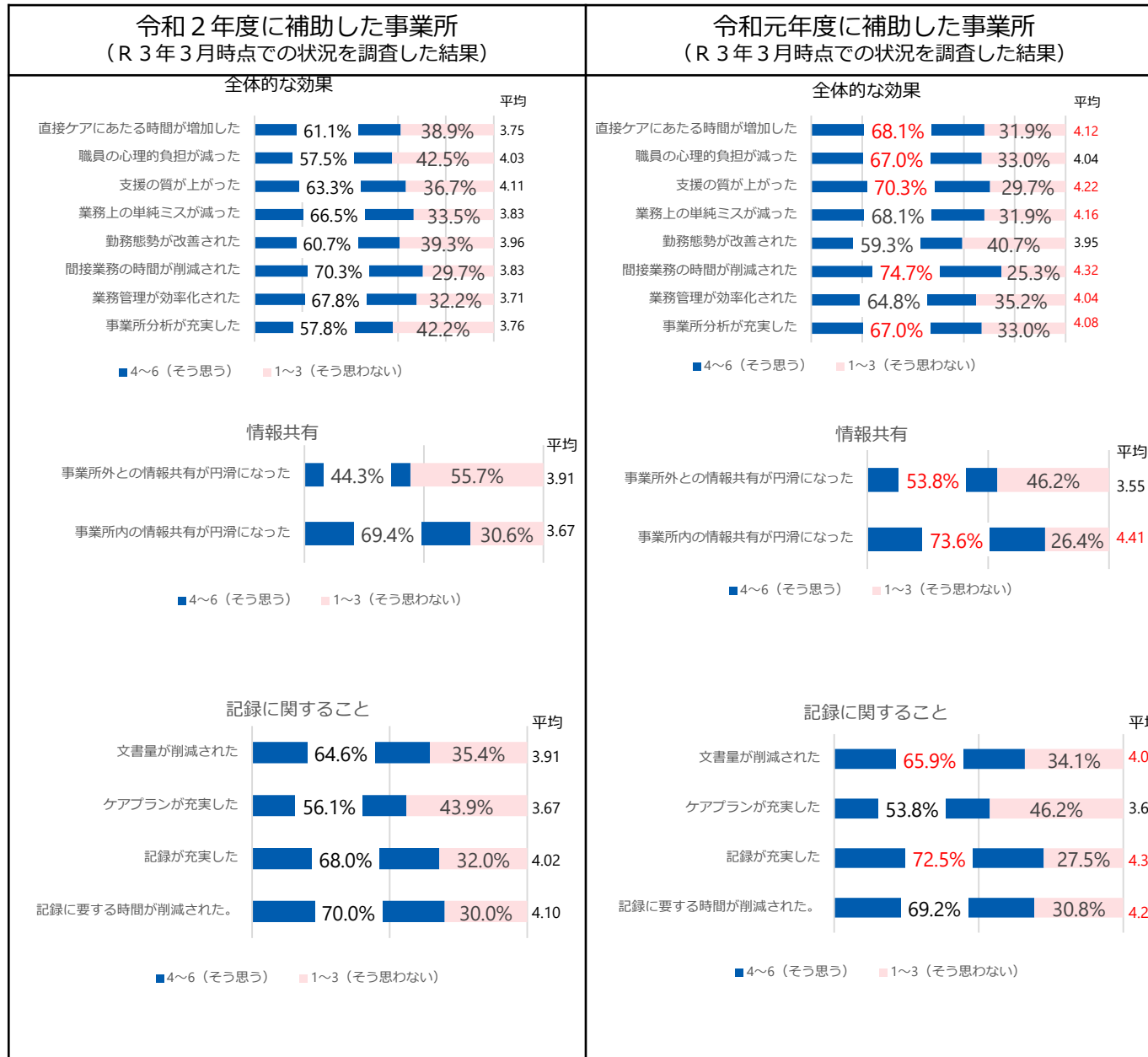
【その他のコメント】

- 研修の工夫、毎日タブレット端末に触れる機会づくり。
- 密なコミュニケーションの工夫。
- スタッフのスケジュールの可視化。
- 業務の流れ、記入時間帯の見直し、事業所環境の整理。
- 入力単語の統一化。

※ 設問は、1 (そう思わない) ~6 (そう思う) の6段階から選択する形式。

導入後の運用継続による効果

導入後、継続してICTを活用することでよりICTの導入効果の評価が高くなる傾向



その他のコメント（抜粋）

【直接的効果】

- 外国人でも簡単なケアの記録なら入力可能となった。
- 隙間時間が活用できるようになった。
- 紙媒体より個人情報漏えいを防止できるようになった。
- 人為的なミスが大幅に減った。
- 記録書式や文言を統一でき、見やすくなり、内容が充実した。
- 書類の保管場所が削減できた。
- スケジュール管理がしやすくなった。

【波及効果】

- 心理的負担が軽減した。
- 記録場所が自由になり、見守りの時間が増えた。
- 多職種協働で総合的なケアプランになった。
- ケアマネジメントのサイクルが安定した。
- 自己分析、利用者の行動分析ができるようになった。
- 職員間でのコミュニケーションが増え、良好な雰囲気になった。
- 家族に説明する内容が充実した。

【うまくいかなかったこと】

- 効率化できる業務や書類の分類が十分でなかった。
- 記録内容等のルールの一貫性がうまくいかなかった。
- 職員のICT化に対する意識統一やスキルが十分でなかった。
- 電子化に同意しない利用者があり、完全にICT化できなかった。
- 慣れるまで、想定より時間がかかった。
- ICTに要する費用が想定以上だった。

【今後工夫が必要なこと】

- 職員のICTスキル向上。
- 多機能な介護ソフトのさらなる活用。
- 定期的な振り返り。
- ペーパーレス化に向けた業務改善。
- マニュアル、記録様式、ルールの整備。
- 他法人事業所、地域包括支援センター等とのデータ連携・情報共有。

など